

**製品名: インテグリン  $\alpha$ 3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12667**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	150kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ITGA3
別名	ITGA3; MSK18; Integrin alpha-3; CD49 antigen-like family member C; FRP-2; Galactoprotein B3; GAPB3; VLA-3 subunit alpha; CD antigen CD49c
遺伝子 ID	3675.0
SwissProt ID	P26006
免疫原	抗血清はヒトインテグリン $\alpha$ 3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 482-531

**背景**

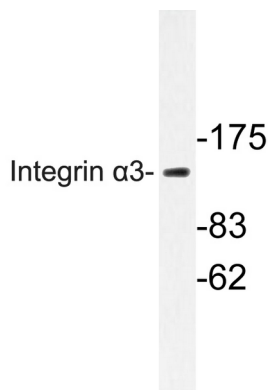
インテグリンサブユニット  $\alpha$ 3 (ITGA3) ホモサピエンス この遺伝子は、インテグリン  $\alpha$  鎖ファミリーのタンパク質のメンバーをコー

ドしています。インテグリンは、細胞表面接着分子として機能する  $\alpha$  鎖と  $\beta$  鎖からなるヘテロ二量体の膜貫通タンパク質です。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって処理され、 $\alpha 3$  サブユニットを構成する軽鎖と重鎖を生成します。このサブユニットは  $\beta 1$  サブユニットと結合してインテグリンを形成し、ラミニンファミリーのメンバーを含む細胞外マトリックスタンパク質と相互作用します。この遺伝子の発現は、乳がんの転移と相関している可能性があります。[RefSeq 提供、2015年10月]、機能：インテグリン  $\alpha 3/\beta 1$  は、フィブロネクチン、ラミニン、コラーゲン、エピリグリン、トロンボスポンジン、および CSPG4 の受容体です。 $\alpha 3/\beta 1$  は、LGALS3 とともに、CSPG4 による内皮細胞遊走の刺激に関与している可能性がある。、PTM:アイソフォーム  $\alpha 3A$  はセリン残基がリン酸化されるが、 $\alpha 3B$  はリン酸化されない。ホルボール 12-ミリスタート 13-アセテート刺激後、リン酸化が増加する。アイソフォーム  $\alpha 3A$  は Tyr-1051 がリン酸化される。、類似性:インテグリン  $\alpha$  鎖ファミリーに属する。、類似性:7つの FG-GAP リピートを含む。、サブユニット: $\alpha$  サブユニットと  $\beta$  サブユニットのヘテロ二量体。 $\alpha$  サブユニットは、ジスルフィド結合で連結された重鎖と軽鎖で構成される。 $\alpha 3$  は  $\beta 1$  と会合する。HPS5 と相互作用する。、組織特異性:アイソフォーム  $\alpha 3A$  は広く発現している。アイソフォーム  $\alpha 3B$  は脳と心臓で発現している。脳では、両方のアイソフォームが血管平滑筋細胞にのみ発現していますが、心臓ではアイソフォーム  $\alpha 3A$  が血管平滑筋細胞に強く発現し、アイソフォーム  $\alpha 3B$  は内皮静脈細胞にのみ検出されます。

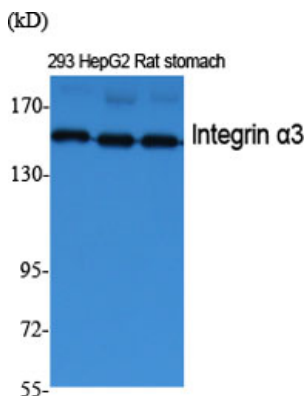
## 研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、造血細胞系統、アクチンと細胞骨格の調節、がんにおける経路、小細胞肺がん、肥大型心筋症 (HCM)、不整脈性右室心筋症 (ARVC)、拡張型心筋症。

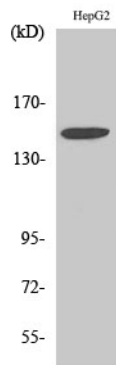
## 画像データ



インテグリン  $\alpha 3$  抗体を使用した HepG2 細胞溶解物のウエスタンブロット分析。



1: 2000 希釈のインテグリン  $\alpha 3$  ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウエスタンブロット解析



1: 2000 希釈のインテグリン  $\alpha 3$  ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタン  
ブロット解析